

令和4年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

1. 看護職の復職支援の利用状況とニーズ

研究代表者	武村 雪絵	東京大学医学部附属病院	看護部長
研究分担者	○ 市川 奈央子	東京大学大学院医学系研究科	助教
	磯部 環	東京大学大学院医学系研究科	助教
研究協力者	高橋 好江	東京大学大学院医学系研究科	特任研究員
	橋本 美穂	日本看護協会	事業局長
	三浦 昌子	愛知県看護協会	会長
	佐藤 浩子	東京都ナースプラザ	所長

研究要旨

本研究は、全国のナースセンター等で実施されている潜在看護職に対する復職支援をより効果的にするために必要な方策を検討するため、看護職の復職支援の利用状況と復職に関するニーズを明らかにすることを目的とした。

臨床経験1年以上で、3ヶ月以上の離職から復職を考えている非就業者、または、3ヶ月以上の離職から復職したことのある就業者・非就業者を対象に、インターネット上で無記名のアンケート調査を実施した。都道府県ナースセンターに、チラシ・メール等による研究協力者募集の案内を依頼した。調査では、個人属性、就業歴、離職理由、復職動機、復職先の施設種類、受けたことのある復職支援の内容、復職支援を利用した理由／利用しなかった理由、有益と感じた支援／感じなかった支援、復職支援への要望等を尋ねた。回答の量的データは記述統計を算出し、自由記述回答は質的帰納的に分析した。本研究は所属機関倫理委員会の承認を得て実施した。

31のナースセンターの協力が得られ、2,298人の回答を分析した。平均年齢は43.0 ± 10.0歳で、平均離職期間は3.37 ± 4.59年（最長41年）であった。今後復職を考えている「復職検討中群」が25%、復職経験があり現在働いている「復職後就業中群」が61%、復職経験があり現在は働いていない「復職後離職中群」が14%であった。復職支援を受けたことがある者は回答者の38.8%であった。受けたことがある復職支援の内容（複数選択）では、「個別相談（窓口・電話・メール等）」、「実技演習（シミュレータ演習含む）」、「講義（対面）」の順に得票数が多く、それぞれ81%、95%、81%の者が「役に立った」と回答していた。復職支援に関する要望や意見として、「研修回数を増やしてほしい」や「何度でも受講できるようにしてほしい」、「オンライン講義や研修を充実させてほしい」「必要な研修を自分で選べるようにしたい」などが寄せられた。

対面支援は復職への不安軽減に効果があり、オンライン支援よりも復職を後押ししていることがうかがえた一方で、居住地や家庭の事情で対面支援が利用できない者の復職を支援するには、オンラインプログラムの充実や自由度の高い研修プログラムが必要であることが示唆された。

A. 研究目的

看護人材の確保と看護職の領域別・地域別偏在の是正には、資格を持ちながら看護職として就業していない「潜在看護職」の復職が鍵となる。都道府県ナースセンターでは、潜在看護職の復職を促進するため、無料職業相談や復職に向けた実技研修等を実施しているが、その効果を評価するためには看護職の復職支援利用状況を全国的に明らかにし、看護職の要望や意見を取りまとめる必要がある。そこで、本研究では、離職経験のある看護職の復職支援の利用状況と復職に関するニーズを明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

インターネット調査を用いた横断研究を実施した。

1. 対象

臨床経験が1年以上ある看護職免許保有者（看護師、准看護師、保健師、助産師）で、3ヶ月以上の離職から復職を考えている非就業者、または、3ヶ月以上の離職から復職したことのある就業者及び非就業者を対象とした。

2. 方法

全国47都道府県のナースセンターに書面にて対象者募集への協力を依頼した。協力への承諾を得られたナースセンターにて、チラシの配布・留め置き・ホームページへの掲載、eナースセンター登録者への一斉メール配信等による研究協力者募集の広報を依頼した。

対象者には、チラシかメールに記載されたURLまたはQRコードから調査画面にアクセスし、調査票に回答するよう依頼した。

3. 期間

2023年1月から2月の約2週間で調査を実施した。

4. 調査項目

調査では、個人属性、就業歴、現在までの離職期間、直近の離職理由、復職先施設の種類、復職動機、これまでに復職支援を受けたことがあるか、これまでに受けた復職支援の内容、復職支援を受けようと思った理由、役に立った復職支援の内容、これまでに受けた復職支援でよかった点、不満だった点、復職支援を受けたことがない（受けなかった）理

由、復職や復職支援についての意見・要望等を尋ねた。

なお、復職支援について尋ねる質問には、「復職支援は、就業先のマッチング支援、研修・実習、アフターフォローなど、復職に関する個別・集団を対象とした様々なサービスやプログラムを含む」との説明文を付した。

5. 分析

回答データから記述統計を算出し、自由回答による質的データは質的帰納的に分析した。

量的データの分析にはIBM SPSS Statistics ver. 28を使用した。

6. 倫理的配慮

調査は匿名で実施し、調査への参加は対象者の自由意志に委ねられていること、参加しなくても不利益は生じないことを調査画面の冒頭で説明した。調査参加に同意した者だけが回答画面に進めるように質問票を設計した。

なお、調査の実施にあたり東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を得た（審査番号2022205NI）。

C. 研究結果

1. 回答者の属性と復職に関する背景

北海道、東北、関東信越、東海北陸、近畿、中国四国、九州の7地域31のナースセンターから協力が得られた。各ナースセンターより、チラシやメールで研究協力者募集が告知された。チラシやメールを受け取ったナースセンター利用者、またはeナースセンター登録者から2,391の回答を得た。このうち、臨床経験1年未満や3ヶ月以上の離職経験がないなど対象基準を満たさない者の回答と、重複・欠損回答及び不誠実回答を除外し、2,298人を分析対象とした（有効回答率96.1%）。

回答者の平均年齢は43.0（標準偏差10.0）歳であった。女性が2,208人（96.1%）で、既婚者が1,756人（76.4%）であった。回答者の30%が大都市部（東京23区または政令指定都市）、60%が市部（政令指定都市以外の市）、10%が郡部（町村）に居住していた。看護職から離職していた期間の平均は、3.37（標準偏差4.59）年で、最長は41年であった。

回答者のうち、今後復職を考えている「復職検討中」が573人（25%）、復職経験があり現在働いている「復職後就業中」が1,413人（61%）、復職経験があり現在は働いてい

ない「復職後離職中」が 312 人 (14%) であった。上記 3 群で年齢や離職期間を比較したところ、復職検討中群の年齢が他の群より有意に低かったが、離職期間では群間で有意な差はなかった。

看護職としての通算経験年数は、10 年未満が 909 人 (40%)、10～19 年が 856 人 (37%)、20 年以上が 533 人 (23%) であった。

直近の離職理由 (3 つまで選択可) では、「妊娠・出産」(637 票)、「育児」(534 票)、「職場の人間関係が悪くなった」(392 票) の順に得票数が多かった。復職経験のある 1,725 人の復職先は、「無床診療所」(331 人)、「病院 (200～499 床)」(206 人)、「病院 (20～199 床)」(190 人) の順に多かった。

復職を考えるようになった理由やきっかけとして上位 3 つまでに選択された項目は、多い順に「働きたいという気持ちになった」(1,586 票)、「経済的な必要性が生じた」(1,499 票)、「育児と仕事の両立の見通しがついた」(1,145 票) であった。

2. 復職支援の利用状況

これまでに復職支援を受けたことがあると回答した者は、全体の 38.8% (892 人) であった。これまでに受けたことのある復職支援の内容 (表 1) は、「個別相談」「実技演習」「対面講義」の順に得票数が多く、それぞれ 81%、95%、81% の者が「役に立った」と回答していた。「講義 (オンラインのリアルタイム配信)」や「講義 (e ラーニングやオンデマンド配信)」の利用者は少なかつたものの、70%以上が「役に立った」と回答していた。

これまでに復職支援を受けたことがないと回答した 1,406 人 (61.2%) には、復職支援を受けたことがない (受けなかった) 理由 (あてはまるもの全て) を尋ねた (表 2)。「支援を受ける必要性を感じなかった」が最も多く選択され、「場所や時間などの都合があわなかった」「復職支援があることを知らなかった」が続いた。「支援を受ける必要性を感じなかった」と回答した 727 人に必要性を感じなかった理由を尋ねたところ、「就職後に働きながら学んでいけると思った」との回答が 50%を占めた (表 3)。

3. 復職支援でよかった点、復職支援に関する要望

「これまでに受けた復職支援でよかった点」及び「復職支援に関する意見・要望」の主な自由記述回答を表 4 に示す。ナースセンターでの看護職によるきめ細かな個別相談や、実技に関する講義・演習への好評価が多く、復職への壁となっている不安感が軽減されたとの意見が多くみられた。一方、研修実施回数の増加、オンライン講義・研修の一層の充実、必要な研修内容を自身で選択できるプログラムの提供を求める声も寄せられた。

D. 考察

1. 看護職の復職支援の利用状況とニーズ

回答者の復職支援の利用は全体の 4 割に満たなかつたものの、復職支援を受けた者の大半は支援が有用だったと感じていた。特に、個別相談や集合研修など対面の復職支援では、相談員や講師から励ましを受けたり、同じ離職中の受講者同士が交流したりすることによって直接的・間接的に復職への不安が軽減され、復職を後押しする効果があると考えられる。一方で、復職支援を受けたことがないと回答した者の 37%は復職支援があることを知らなかつた。ナースセンターによる復職支援事業の周知方法の工夫など、利用を促進するための方策が必要と考えられる。また、44%は時間や場所などの都合があわず復職支援を受けなかつたと回答していた。自由記述回答で研修実施回数の少なさが指摘され、オンデマンド講義・研修の充実やカスタマイズ可能なプログラムが望まれていたことと併せると、より自由度の高いプログラム内容をオンラインで提供することが利用促進につながると考えられる。

2. 今後の課題

本研究では、ナースセンターを介して研究協力者を募集したため、回答者はナースセンターの利用者や登録者に限定されている。そのため、ナースセンターとのつながりが少ない求職者の復職支援利用状況や復職に関するニーズは把握できていない。また、アンケート調査では、これまでに受けたことのある復職支援の具体的な内容・提供方法やニーズの詳細までは明らかにできないため、予備的なニーズ把握にとどまる。したがって、次年度のインタビュー調査で聞き取りを行い、詳細を明らかにする必要がある。

E. 結論

本研究では、離職経験のある看護職の復職支援の利用状況と復職に関するニーズをインターネット調査によって明らかにした。復職支援の利用は全体の4割程度にとどまっており、利用促進のための方策の必要性が明らかになった。また、オンラインプログラムの充実や自由度の高いプログラムへのニーズが明らかになった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表 1 これまでに受けたことのある復職支援の内容

(n = 892)

復職支援の内容	受けた (n = 892)		役に立った	
	度数	割合	度数	割合*
実技演習 (シミュレータ演習含む)	400	44.8%	380	95.0%
講義 (対面)	291	32.6%	237	81.4%
講義 (オンラインのリアルタイム配信)	47	5.3%	33	70.2%
講義 (eラーニングやオンデマンド配信)	99	11.1%	74	74.7%
施設見学や体験実習 (1日～数日間)	198	22.2%	173	87.4%
施設での1週間以上のOJT	19	2.1%	15	78.9%
個別相談 (窓口・電話・メール等)	491	55.0%	391	79.6%
相談会や情報交換会	122	13.7%	97	79.5%

*復職支援を受けたと回答したもののうち、支援が役に立ったと回答したものの割合

表 2 復職支援を受けたことがない（受けなかった）理由

(n = 1406)

受けたことがない（受けなかった）理由	度数	割合
復職支援があることを知らなかった	523	37.2%
場所や時間などの都合があわなかった	623	44.3%
支援を受ける必要性を感じなかった	727	51.7%
求めている内容の支援がなかった	388	27.6%
その他	95	6.8%

注) あてはまるもの全てを回答

表 3 復職支援を受ける必要性を感じなかった理由

(n = 727)

必要性を感じなかった理由	度数	割合
ブランクが短い	294	40.4%
現場の感覚や技術に不安がなかった	200	27.5%
就職後に働きながら学んでいけると思った	361	49.7%
その他	76	10.5%

注) あてはまるもの全てを回答

表 4 これまでに受けた復職支援でよかった点・復職支援に関する要望や意見

これまでに受けた復職支援でよかった点

- ・個別相談：希望や不安を聞いて親身に対応してくれる、就業先と交渉してくれる、など
 - ・対面での講義や研修：離職者同士の交流や情報交換により安心できた、刺激になった、など
 - ・実技演習：復職への自信につながった、無料で受けられてありがたかった
 - ・施設見学：職場の雰囲気を知れた、仕事内容を知れた、など
 - ・情報収集：ウェブには載っていない情報が得られた、施設の特性を比較できた、など
-

復職支援に関する要望や意見

- ・研修等の実施回数を増やしてほしい、何度でも受講できるようにしてほしい
 - ・オンライン講義・研修を充実させてほしい（eラーニング視聴可能期間の延長、いつでも視聴可能なアーカイブ配信、など）
 - ・復職に向けた研修が全て盛り込まれたスケジュール表から、必要と思った内容のみ受けたい
 - ・勤務先ごとに必要な知識が学べるプログラムがほしい
-

(資料 1)

「潜在看護職の復職支援に関するアンケート（看護職用）」質問項目

- Q1.** あなたは、看護職（准看護師・看護師・保健師・助産師）で、通算臨床経験が1年以上ありますか。
- ① はい
 - ② いいえ
- Q2.** あなたは、以下のどれに該当しあすか。※復職は、非正規雇用（パート勤務やアルバイト勤務）での復職も含みます。ただし、単発アルバイトでの復職は除きます。
- ① 現在、3か月以上離職しており、今後復職することを考えている
 - ② 3か月以上の離職から復職した経験があり、現在働いている
 - ③ 3か月以上の離職から復職した経験があるが、現在は働いていない
 - ④ 上記のどれにも当てはまらない
- Q3.** あなたは、このアンケートのことを何で知りましたか。（あてはまるものをすべて選んでください）
- ① チラシ・ポスター
 - ② 都道府県ナースセンターまたはeナースセンターからのメールやウェブサイト等
 - ③ 職業紹介事業者
 - ④ Web 広告
- Q4.** あなたが保有している看護師（准看護師・保健師・助産師）免許証の形状はどれですか。
- ① カード
 - ② Web・オンラインでの発行
 - ③ 証書（紙）
- Q5.** あなたが受験した看護師・保健師・助産師国家試験および准看護師試験の方法は次のうちどれですか。（あてはまるものすべて選んでください）
- ① 筆記試験
 - ② 実技試験
 - ③ 口述試験

あなた自身についておたずねします。

Q6. 年齢（18～70歳以上から選択）

Q7. 性別

- ① 女性
- ② 男性
- ③ 回答しない

Q8. 居住地（47都道府県から選択）

Q9. 居住地域

- ① 大都市部（東京23区または政令指定都市）
- ② 市部（政令指定都市以外の市）
- ③ 郡部（町村）

Q10. 婚姻状況

- ① 未婚
- ② 既婚

- ③ 離死別
- ④ その他

Q11.子どもの人数

- ① 0人
- ② 1人
- ③ 2人
- ④ 3人
- ⑤ 4人以上

Q12.未就学児の人数

- ① 0人
- ② 1人
- ③ 2人
- ④ 3人
- ⑤ 4人以上

Q13.現在、家族の介護をしていますか。

- ① はい
- ② いいえ

Q14.保有している看護職免許の種類（あてはまるものをすべて選んでください）

- ① 准看護師
- ② 看護師
- ③ 保健師
- ④ 助産師

Q15.保有している認定または専門看護師等の資格

- ① なし
- ② 認定看護師
- ③ 専門看護師
- ④ 診療看護師（NP）
- ⑤ 特定行為研修修了
- ⑥ その他

Q16.看護系の最終学歴

- ① 准看護師学校
- ② 看護師5年一貫教育校
- ③ 専門学校（通信制含む）
- ④ 短期大学
- ⑤ 4年制大学
- ⑥ 大学院
- ⑦ 助産師・保健師養成所（短大・大学専攻科含む）
- ⑧ その他

Q17.看護師免許を取得してから、何年経ちますか。（准看護師免許のみ保有の方は、准看護師免許取得後の経過年数をお答えください）

- ① 1年
- ② 2～4年
- ③ 5～9年
- ④ 10～14年
- ⑤ 15～19年
- ⑥ 20～24年

- ⑦ 25～29年
- ⑧ 30年以上

Q18.看護職としての通算経験年数 ※産前産後・育児休暇および休職・離職期間は除きます。

- ① 1年以上2年未満
- ② 2年以上5年未満
- ③ 5年以上10年未満
- ④ 10年以上15年未満
- ⑤ 15年以上20年未満
- ⑥ 20年以上

Q19.これまでに看護職として就業した施設数 ※非正規雇用（パート・アルバイト）での就業も含みます。ただし、単発アルバイトで就業した施設は除きます。※以前就業していた施設に再就職した場合や他施設に異動した場合は、別施設としてカウントしてください。

- ① 1施設
- ② 2施設
- ③ 3施設
- ④ 4施設
- ⑤ 5施設
- ⑥ 6施設以上

Q20.これまでに看護職として就業したことがある施設の種類の種類（あてはまるものをすべて選んでください）※非正規雇用（パート・アルバイト）での就業も含みます。ただし、単発アルバイトで就業した施設は除きます。

- ① 病院（500床以上）
- ② 病院（200～499床）
- ③ 病院（20～199床）
- ④ 有床診療所（クリニック）
- ⑤ 無床診療所（クリニック）
- ⑥ 助産所
- ⑦ 居住系介護施設（老健、特養、グループホーム等）
- ⑧ 居住系サービス事業所（デイサービス、地域包括ケアセンター等）
- ⑨ 訪問看護サービス・小規模多機能介護施設
- ⑩ 国・省庁
- ⑪ 都道府県・保健所、市町村・保健センター
- ⑫ 保育所・幼稚園・学校（養護教諭等）
- ⑬ 看護師養成所・大学等
- ⑭ 企業
- ⑮ その他

Q21.現在までの離職期間を教えてください。（就業中の方や、複数回の離職経験がある方は、直近の離職期間をご記入ください）

_____年_____ヶ月

Q22.直近の離職の理由を教えてください。（あてはまるものを3つまで選択できます）

- ① 結婚
- ② 妊娠・出産（自身もしくは配偶者）
- ③ 育児
- ④ 自身の健康問題
- ⑤ 家族・親族の健康問題（介護含む）
- ⑥ 配偶者/パートナーの転勤・転職や転居
- ⑦ 配偶者/パートナーとの離死別
- ⑧ 勤務地・勤務時間・勤務形態などが希望に合わなかった

- ⑨ 配属や仕事内容が希望に合わなかった
- ⑩ 給与が少なかった
- ⑪ 時間外労働が多かった
- ⑫ 職場の人間関係が良くなかった
- ⑬ 休暇が取れなかった・取りづらかった
- ⑭ 時間的なゆとりが欲しかった
- ⑮ 進学・キャリアアップがしたかった
- ⑯ 学業に専念したかった
- ⑰ その他

Q23.離職した時の職位を教えてください。（複数回離職経験のある方は、最も高かった職位をお答えください）

- ① スタッフ
- ② 副看護師長/主任/副主任
- ③ 看護師長相当
- ④ 副院長/看護部長または副看護部長
- ⑤ その他

Q24.復職先は、次のうちどれですか。 ※2回以上復職したことがある場合は、最も長い離職から復職した時の就業先をお答えください。

- ① 病院（20～199床）
- ② 病院（200～499床）
- ③ 病院（500床以上）
- ④ 有床診療所（クリニック）
- ⑤ 無床診療所（クリニック）
- ⑥ 助産所
- ⑦ 居住系介護施設（老健、特養、グループホーム等）
- ⑧ 居住系サービス事業所（デイサービス、地域包括ケアセンター等）
- ⑨ 訪問看護サービス・小規模多機能介護施設
- ⑩ 国・省庁
- ⑪ 都道府県・保健所、市町村・保健センター
- ⑫ 保育所・幼稚園・学校（養護教諭等）
- ⑬ 企業
- ⑭ 新型コロナウイルスワクチン接種会場/施設
- ⑮ 新型コロナウイルス感染者宿泊療養施設
- ⑯ その他の新型コロナウイルス感染者関連施設（酸素・医療提供ステーション等）
- ⑰ その他

Q25.今後、新型コロナウイルス感染症関連の仕事以外で、看護職として復職する意向はありますか。

- ① ある
- ② ない

Q26.新型コロナウイルス感染症関連の仕事以降に、復職を希望する施設の種類のうちどれですか。

- ① 病院（500床以上）
- ② 病院（200～499床）
- ③ 病院（20～199床）
- ④ 診療所（クリニック）
- ⑤ 訪問看護事業所
- ⑥ 助産所
- ⑦ 居住系介護施設（老健、特養、グループホーム等）
- ⑧ 居住系サービス事業所（デイサービス、地域包括ケアセンター等）
- ⑨ 行政（国・省庁、都道府県・保健所、市町村・保健センター）
- ⑩ 保育所・幼稚園・学校（養護教諭等）

- ⑪ 企業
- ⑫ その他
- ⑬ 特に決めていない

Q27.復職を考えるようになった理由やきっかけについて順位をつけてください。（1位から3位まで選んでください）

- ① 育児と仕事の両立の見通しがついた
- ② 家族の介護が落ち着いた
- ③ 経済的な必要性が生じた
- ④ 自身の体調が回復した
- ⑤ 結婚・引っ越し後などの新生活に慣れたと感じた
- ⑥ 留学や進学、免許取得などのやりたかったことを終えた
- ⑦ 働きたいという気持ちになった
- ⑧ 希望の条件に合った勤務先を見つけた
- ⑨ 新型コロナウイルス感染症対応の復職呼びかけ
- ⑩ その他

Q28.上の質問（復職を考えるようになった理由やきっかけ）の回答で1位をつけた項目について、その理由を教えてください。（自由記述）

Q29.今後、復職を希望する施設の種類の種類は、次のうちどれですか。

- ① 病院（500床以上）
- ② 病院（200～499床）
- ③ 病院（20～199床）
- ④ 診療所（クリニック）
- ⑤ 訪問看護事業所
- ⑥ 助産所
- ⑦ 居住系介護施設（老健、特養、グループホーム等）
- ⑧ 居住系サービス事業所（デイサービス、地域包括ケアセンター等）
- ⑨ 行政（国・省庁、都道府県・保健所、市町村・保健センター）
- ⑩ 保育所・幼稚園・学校（養護教諭等）
- ⑪ 企業
- ⑫ 新型コロナウイルスワクチン接種会場/施設
- ⑬ 新型コロナウイルス感染者宿泊療養施設
- ⑭ その他の新型コロナウイルス感染者関連施設（酸素・医療提供ステーション等）
- ⑮ その他
- ⑯ 特に決めていない

Q30.復職を希望する時期は、いつですか。

- ① できるだけ早く
- ② 1ヶ月以内
- ③ 数ヶ月～半年以内
- ④ 半年～1年以内
- ⑤ 数年以内
- ⑥ その他
- ⑦ まだ決めていない

Q31.復職にあたり利用したことのある事業者・サービスはどれですか。（あてはまるものをすべて選んでください）

- ① 都道府県ナースセンター
- ② ハローワーク
- ③ 有料職業紹介事業者
- ④ 派遣会社

- ⑤ 雑誌、会報、チラシの求人情報や Web 広告
- ⑥ 就業施設のホームページ
- ⑦ その他
- ⑧ 利用したことがない

Q32. これまでに復職支援を受けたことがありますか。 ※復職支援とは、就業先のマッチング支援、研修・実習、アフターフォローなど、復職に関する個別または集団を対象とした様々なサービスやプログラムを含みます。

- ① 都道府県の看護協会やナースセンター（ナースバンク）の復職支援を受けたことがある
- ② 病院や施設が実施する復職支援を受けたことがある
- ③ 上記以外の復職支援を受けたことがある（具体的にお書きください）
- ④ 復職支援を受けたことはない

Q33. これまでに受けたことのある復職支援の内容はどれですか。（あてはまるものをすべて選んでください）

- ① 実技演習（シミュレータ演習含む）
- ② 講義（対面）
- ③ 講義（オンラインのリアルタイム配信）
- ④ 講義（eラーニングやオンデマンド配信）
- ⑤ 施設見学や体験実習（1日～数日間）
- ⑥ 施設での OJT（実務を通したトレーニング）（1週間以上）
- ⑦ 個別相談（窓口・電話・メール等）
- ⑧ 相談会や情報交換会
- ⑨ その他（具体的な復職支援事業名でも可）

Q34. 復職支援を受けようと思った理由は何ですか。（あてはまるものをすべて選んでください）

- ① 現場の感覚を取り戻したかった
- ② 知識のアップデートをしたかった
- ③ 技術のアップデートをしたかった
- ④ 復職にあたり心の準備をしておきたかった
- ⑤ 復職に関する情報を得たかった
- ⑥ 復職後の生活に慣れておきたかった
- ⑦ 就職先を決める際の参考にしたかった
- ⑧ 就業先の雰囲気を知りたかった
- ⑨ その他（具体的にお書きください）

Q35. 役に立った復職支援の内容はどれですか。（選択肢は Q33 と同じ）

Q36. 上の質問で回答した復職支援が役に立った理由を教えてください。（自由記述）

Q37. 役に立たなかった復職支援はどれですか。（選択肢は Q33 と同じ）

Q38. 役に立たなかった理由を教えてください。

- ① すでに知っている内容だった
- ② 内容が就業先の仕事内容と合っていなかった
- ③ その他（具体的にお書きください）

Q39. これまでに受けた復職支援で、よかった点、不満だった点があれば教えてください。（自由記述）

Q40. 復職支援を受けたことがない（受けなかった）理由として、あてはまるものをすべて選んでください。

- ① 復職支援があることを知らなかった
- ② 場所や時間などの都合があわなかった

- ③ 支援を受ける必要性を感じなかった
- ④ 求めている内容の支援がなかった
- ⑤ その他

Q41. 支援を受ける必要性を感じなかった理由は何ですか。（あてはまるものをすべて選んでください）

- ① ブランクが短い
- ② 現場の感覚や技術に不安がなかった
- ③ 就職後に働きながら学んでいけると思った
- ④ その他（具体的にお書きください）

Q42. どのような内容の支援を求めていますか。（自由記述）

Q43. 今後機会があった場合、どのような復職支援があれば受けたいと思いますか。（選択肢は Q33 と同じ）

Q44. どのタイミングで復職支援を受けられたらよいと思いますか。各項目についてタイミングを教えてください。

（Q33 の選択肢それぞれについて）

- ① 復職したいと思ったら
- ② 就業先を探す前
- ③ 応募する勤務先が決まったら
- ④ 希望の勤務先に就職が決まったら
- ⑤ 働き始めたら
- ⑥ わからない

Q45. 復職するにあたり、不安なことや気がかりなことは何ですか。（あてはまるものをすべて選んでください） ※復職経験のある方は、復職前のことを思い出して回答してください。

- ① 新しい知識（治療法、薬剤、機器、看護手技など）を習得できるか
- ② 仕事に早く慣れることができるか
- ③ 職場の雰囲気が自分に合うか
- ④ 職場の人間関係が良好か
- ⑤ 仕事と家庭の両立ができるか
- ⑥ その他（具体的にお書きください）
- ⑦ 特になし

Q46. その他、復職や復職支援について、ご意見やご要望をお聞かせください。（自由記述）